

シグマ研究委員会 FP 積分テスト・サブWG 会合議事録

日 時 1985年2月22日 13:30-17:30
場 所 原研本部第4K
出席者 渡部(川重), 佐々木(MAPI), 錦織(阪大), 菊地(原研),
川合, 飯島(NAIG)

配布資料

- (1) 前回議事録
- (2) FPIT-84-15: 熱中性子断面積の shape の要チェック核種 (共鳴パラメタ sub WG あて) (飯島)
- (3) FPIT-84-16: JFS-3-J2 と JENDL-2B-70 の概要, 山本正昭氏のメモより及び JENDL-2FP 積分テスト進捗状況 (佐々木)
- (4) FPIT-84-17: FP 積分テストプログラム修正の現状 (渡部)
- (5) FPIT-84-18: FP 中性子捕獲断面積の統計理論計算値の共分散 (飯島)

議 事

1. 資料(1)により, 前回の議事録を確認した。
2. 資料(2)について, 飯島氏から説明があり, 熱中性子断面積の形が適切でないと見られる評価値について, 共鳴パラメタサブWG に検討を依頼することとした。
3. 資料(3)に沿って, 佐々木氏から, 群定数作成, スペクトル内挿, スペクトル共分散の COVERX フォーマットへの交換の進行状況の説明があった。資料(4)について, 渡部氏から, 積分テストプログラム修正の現状の説明があり, 両氏の報告に関連して, 議論と, 取り決めを行なった。主な点は, 次のようである。
 - (a) MINX で処理した群定数を, JFS-3 のデータ・プール (Master library) に収める。これを, JFS-3 形式にするさいには原研システム研の中川/金子さんの協力をあおぐ。

JFS-3-J2 の, U, O, etc のライブラリーと compatible であることが必要且つ充分条件。
 - (b) 最初に採り上げる核種は, ^{99}Tc , ^{149}Sm とする。来週中に, 菊池氏がこ

れについて MINX の run をしておく。

- (c) JFS - 3 - の第 70 群は, 293K の Maxwell average 値を入れる。
- (d) 積分テストプログラム修正は略終了したがテストランが必要。結果のプロット・ルーチンは 3 ~ 4 月頃の見込み。
- (e) EBR - II スペクトルを飯島氏から渡部氏に送付する。
(R, A, Anderel, EGG - PHYS - 5408 (1981), R, A, Anderel et al EGG - PHYS - 5182 (1982))
- (f) スペクトル内挿の Spline fit 及び, スペクトル共分散の COVERX フォーマットへの変換は未着手。3 月に行なう。

4. 群定数共分散作成と調整について

資料(5)に沿って, 飯島氏から説明があった。主な取り決めは次のようである。

- (a) FBR 用の調整コードを作成した。(錦織。) FP への適用もそのまま出来るはずで, データ待ちの状態。テストのため, 常陽用の群定数共分散データを飯島から錦織氏へ送る。
- (b) 分離共鳴域と非分離共鳴域は, 別箇の評価を行なったので, この間には共分散相関は無いものとする。
- (c) 分離域の $g\Gamma_n\Gamma_r/\Gamma$ の誤差を, ^{99}Te , ^{149}Sm について, 菊池氏から提出して欲しい。
- (d) STEK サンプル反応度の調整は, $\rho_{\text{exp}}^{\text{cap}} \approx \rho_{\text{exp}}^{\text{net}} - C \rho_{\text{calc}}^{\text{scatt}}$ として, $\rho_{\text{exp}}^{\text{cap}}$ について行なう。JENDL - 1 では C = 1, 2 であったが, 今回はどうなるか, 散乱体サンプル反応度の解析を早目に行なう必要がある。或は, 散乱の余り利かない, 強吸収体をさし当り, 対象とする。

次回予定

- 日時 1985年4月5日(金) 13: - 17: 00
- 場所 原研本部
- 議題 (1) 作業進行状況
(2) S - 60 年度計画
(3) Santa Fe 会議準備